

特定非営利活動法人東日本大震災こども未来基金 平成30年度事業報告

当基金は前年度に引き続き、小学生から高校生までの学資支援事業及び、当基金内に設けた忠内・三上基金によって、大学などに進学した学生への奨学金事業、被災地の子どもたちをケアする団体などへの助成事業を実施しました。また2019年3月には、忠内・三上基金を活用して、被災地の子どもたちの現況を考えるシンポジウムを特定非営利活動法人テイラー・アンダーソン記念基金と共催で、東京において開催しました。

学資支援事業については、小学4年生から高校3年生までの合計98人（小学生51人、中学生24人、高校生23人）に年度を通じてひとり24万円の学資支援金を支給しました。支給金の合計は2352万円となりました。高校を卒業したのは8名です。そのうち5人から当基金へのメッセージが届いていますので、添付します。

奨学金事業については、15人（2017年度7人、2018年度8人）に年度を通じてひとり36万円の給付型奨学金を支給しました。支給額の合計は540万円になりました。

助成金事業については、①子どもの甲状腺検診（被曝と健康研究プロジェクト、栃木県那須塩原市）、②子ども図書館（こども文庫、福島県相馬市）、③被災児童の養育（子どもの村東北、宮城県仙台市）、④子どもの遊び（プレーワーカーズ、宮城県名取市）、⑤小学生の合宿（宮城県石巻市立北上小学校）、⑥音楽による保育（音楽の力による復興センター東北、宮城県仙台市）、⑦子どもの遊び場（わがまっこふれーぱーく、宮城県塩釜市）の7団体に合計282万円の助成金を支給しました。

また、2019年3月16日には、「東日本大震災、こどもたちは今」と題したシンポジウムを東京・日本記者クラブで、特定非営利活動法人テイラー・アンダーソン記念基金との共催で開催しました。シンポジウムでは、被災した子どもたちの体験として、当基金が支援してきた大学生が登壇して、父親をなくした悲しみなどを語り、同じく支援してきた大学生は、父をなくした経験から2019年4月から石巻市役所に就職することになった思いを綴ったメッセージを受け取り会場で配布しました。また、被災地の子どもたちをケアする団体の代表によるパネルディスカッションは、当基金の高成田享理事長が司会、当基金が助成する「こども文庫」などの代表がパネリストとして登壇しました。参加者による情報交換会では、「被曝と健康研究プロジェクト」、「プレーワーカーズ」など当基金が支援する団体の代表も参加しました。シンポジウムの費用は、合計82万円余で、テイラー基金と折半した結果、当基金の負担額は41万円余となりました。

運営面では、事務所の家賃、通信費など経常的な支出のほか、2018年6月2日に開いた当基金の総会及び理事会の参加者を対象にした研修旅行（宮城県石巻市に1泊して大川小学校などを見学）の交通費に支出が加わりました。その結果、運営費の支出合計は20万円余となりました。